

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970101842		
法人名	有限会社ハヤシ		
事業所名	グループホーム エルハヤシ学園前センター		
所在地	奈良市学園朝日町12-10		
自己評価作成日	平成28年11月25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	ensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiqyosyoCd=2970101842-00&PreICd
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成30年3月22日	一階	ハーモニーユニット

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームエルハヤシ学園前センターでは奈良市在住の方の地域密着型グループホームで自立支援と快適な生活をj提供することを基本方針としています。また音楽をもって心を豊かにする。人を助けてわが身助かる。一人ひとりの尊厳を大切にすることを運営理念に入居者の皆様が楽しく穏やかに生活ができるよう支援をしています。一年を通してしているいろいろな行事を行っており、特にハヤシグループ全体の利用者が年に一度舞台上で音楽を楽しむため当グループホームの入居者も日々音楽の練習を重ねております。地域の自治会の行事にも積極的に参加をjしており地域の住民の皆様とも交流を行っております。また入居者の皆様にはクラブ活動や音楽以外にも外出支援の買い物ツアーを実施しております。

鉄骨造り3階建ての寮であった建物を、3ユニットのグループホームに改修している。階段には、昇降機が取り付けられている。認知症の方に音楽で心を豊かにすることを理念とし、日常生活に音楽を取り入れ、年1回の法人の音楽発表会に利用者が参加している。お茶や習字、図工などのレクリエーションを行っている。また、毎週土曜日に買い物レクリエーションを行い、利用者が交代で外出できるようにしている。生活保護の利用者の方を受け入れ、市と連携しながら支援している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで、暮らしている。 (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	音楽でもって心豊かになる。人を助け我が身が助かる。1人ひとりの尊厳を大切に、というのを理念として地域の交流や入居者が主体的に自己実現できるような援助をするよう努めている。	事業所の理念をパンフレットに記載されている。認知症の方に音楽の力を利用して元気になっていただくことを理念とし、年1回の法人の音楽発表会を行って利用者が参加している。理念の中に、地域との関わりが含まれていればさらに良いと思われる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会からの行事には入居者の参加を呼びかけ交流をしている。また当施設主催の行事に地域住民に声掛けをして参加をしてもらっている。	自治会に加入し、クリーンキャンペーンに参加している。また、管理者は、毎月自治連合会の定例会に参加し、その情報を運営に活かしている。公民館で行われる体操などの行事に参加する利用者がいて、地域住民と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や清掃等に参加するなど地域の皆さんと交流するよう取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では当事業所の行事や活動を、地域の方々話し合い地域に貢献できるよう取り組んでいる。	地域包括支援センター職員、民生委員などが参加し、年に2回開催している。2ヶ月に1回、開催したいと考えているが、実現できていない。また、最近自治会長の参加が得られていない。	地域代表の自治会関係者、利用者家族を運営推進会議に参加の働きかけを行い、意見や要望を積極的に聴く場として、サービスの向上に反映させる取組みが望まれる。かつ、概ね2ヶ月に1回会議を開催する取組みが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスに組み込みについて市の担当者に積極的に伝えまた意見や助言をもらい協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の介護福祉課には介護認定の更新や介護保険の相談などで訪問し、協力関係を築いている。生活保護の利用者が半数おられ、市の保護課の職員と密接に連携して支援している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や講習会に職員全員が参加し、理解した上で身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないことを契約書に明記している。法人の研修会で年に1回は必ず身体拘束について学習し、職員で確認している。安全のため玄関は内側から鍵をかけているが、外出願望のある方には、職員が付き添い散歩に出かけ気分転換を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講習会に職員全員が参加し、理解をすると共に管理者は職員に気を配り虐待がないよう注意を払って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会に職員全員が参加して、制度を理解し入居者が活用される場合、支援をする体制になっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時、家族や入居される方と面談して重要事項書に従って質問や疑問に答え十分な説明を行っている。また解約や改訂時も家族や入居者に理解、納得できるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃より入居者の家族の方が面会時や電話などで気軽に話ができるよう心がけ意見、相談や苦情があればすぐに責任者に報告して対応してそれらを運営に繁栄させている。	面会の機会を増やすため、毎月の利用料を直接事業所に持参していただくことにより、その時に家族から要望等を聴いている。面会の少ない方は、電話で意見や要望を聴いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員の意見提案を聞く機会を設け、意見提案の出しやすい職場作りに努め、意見提案を検討した後、運営に反映させている。	運営に関する職員の要望や意見は、直接管理者に伝えたり、連絡ノートに書いている。大切なことは、月1回の職員会議で話し合っている。管理者が個別に職員から話を聴くこともある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の勤務状況を把握することに努め職員個々の考えや希望をアンケートなどで調査して職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員1人ひとりのケアについて観察し把握して職員1人ひとりに応じた指導や研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見の交換を行っている。また他の施設なども見学し活動を通じてサービスの質の向上を少しでもできるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の時より、本人から不安なことや要望を聞いたりまた様子を見ながら関係作りに努めている、また面談の記録を残し職員全員が共有できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学や本人と家族への訪問通して不安なことや要望を聞き取り関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としている支援内容を見極めて介護支援専門員や病院の相談員などと共にその時に特に必要な支援を優先して柔軟に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であり家事や生活をしたり日常生活の中で入居者の喜び悩みし思い願いを共感したりして、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に十分家族と話し合い入居後も本人の状況や近況報告を随時行い家族との信頼関係を築きともに本人を支えていく関係を築きたい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族友人知人など常に面会ができ、馴染みの方の訪問も受け入れている。外出の希望もあれば家族の協力を得ながら実現できるよう努めている。	家族だけでなく、知人の面会も受け入れている。毎週、数名でお出かけツアーを企画し、馴染みのお店で買い物をしたり、散髪をしたりしている。希望があれば年末年始に自宅に帰ることができるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握し座席位置など調整したり1人ひとりが孤立させないように入居者同士が関わり合い支え合うように職員が見守り配慮に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合でも問い合わせや情報収集を行いこれまでの関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を直接尋ねたり日々の生活の中で雰囲気などで察したりしている。把握が困難な場合でも日頃の様子や家族と相談したりして本人本意の支援ができるよう検討している。	利用開始前に、管理者は家庭訪問をし、利用者の生活歴や利用に至る経過、事業所での暮らし方の希望などを把握している。日々の生活の中で、職員は利用者の思いや意向の把握に努力している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者1人ひとりのいままでの暮らしの経過や経験を把握し各入居者に対しその人らしい生活が送れるよう支援に努めている。今までのサービス利用などの記録も管理して把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の1人ひとりの暮らしの中で僅かな変化にも注意を払い一日の様子や気づいた点を記録している。担当職員同士で話し合い、ケアカンファレンスを行いその時の状態に応じた支援を行えるよに努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者の状態を常に把握し、入居者本人や家族の意見や要望を反映し話し合い入居者本人の意思を尊重し現状に即した介護計画を作成している。	利用者の暮らし方の希望と、毎月のモニタリングの結果やケアカンファレンスの情報を元に、介護計画が立てられている。介護計画が、病気やADLに対する対処が中心になっている。	アセスメント用紙を工夫し、利用者の生活歴や生きがい、趣味嗜好などを把握して、プラス面からアプローチした「笑顔が増えるプラン」もあればよいと思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や気づいた点を各利用者ごとに記録をし、職員間で情報を共有しており、それをもとに実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じグループの特別養護老人ホームと連携して季節ごとに行事を行って折、柔軟な支援や対応が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との社会交流をはかるため、ボランティアによる楽器演奏などのイベントを行って支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、契約時に説明をし納得をえて適切な医療を受けられるように支援している。緊急時には施設の提携病院等に対応できるよう説明しており、家族の希望に添って支援している。	利用者は毎月1回、協力病院に受診している。家族が付き添って、利用者個人のかかりつけ医に通院する方もいる。看護師の職員が利用者の健康管理を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し、入居者のわずかな変化など気付いたときは相談をして適切な助言を得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と提携を保ち、疾病時の入院先の病院関係者との情報交換や相談に努め、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入所時に家族の方針について確認している。事業所でできることも十分に説明しながら、状態の変化に合わせてその都度家族と話し合いをしている。協力病院や協力施設などの地域の関係者とも連携をとり、共にチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に、重度化した場合の事業所のできることを説明している。事業所での看取りの事例はなく、医療依存度が増した場合は、家族と相談の上入院する方が多い。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修制度で職員全員が応急手当や初期対応の訓練を受けており、入居者の急変や事故発生時に備え実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	昼間、夜間を問わず災害を想定した避難訓練を定期的実施している。また災害時には地域との協働体制について日頃から理解し、常に実行できる体制を築いている。	玄関と反対側に、非常出口があり、外階段も設置されている。火災報知器やスプリンクラーが設置されている。年2回、利用者も参加して避難訓練が行われている。飲料水の備蓄が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の講習会でプライバシーの保護について職員全員が研修を受けたおり1人ひとりの人格を尊重し日頃から言葉かけや対応については指導を行っている。また記録の仕方についても注意をしている。	社内の研修会で必ずプライバシーの保護について学習している。利用者の人格を尊重し、丁寧な声かけを心がけており、居室に入るときは、必ず声かけし本人の了解を得てから入室している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人ができるだけ思いや希望を話すことができるように日頃の会話のときなど話をよく聞き理解できるよう支援している。また会話など言葉で表すことがむずかしい方については表情や動作で理解できるよう、思いを推し量るような支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりのペースにあわせて起床、食事、入浴、就寝など行っている。また施設の中でゆっくりしたい人や買い物など外出したい人など、本人の希望にそって支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみには気をつけている。特に外出のときなど利用者の希望に合わせた服装や髪型をしてもらうように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者1人ひとりの能力や興味に応じて、食事の準備や配膳、片づけなど職員といっしょに楽しみながら行っている。	朝食は、職員が台所で作り、昼食と夕食は給食業者から調理済みの主菜を納入してもらい、ご飯と味噌汁は職員が作り、温かいものを提供している。夕食には、副菜の1品を職員がつくり添えている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を個人別に記録し、十分な栄養摂取と水分の確保が行われているか確認するよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後、職員が声を掛け口腔ケアを実施している。また、自力でできない利用者は、職員の介助で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、習慣を活かして定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排尿・排便を促すことで、気持ちよく排泄ができ、自立に向けオムツの使用を減らしている。	利用者の排泄パターンを把握し、必要な方には定期的にトイレ誘導を行っている。排泄が自立して、布パンツで生活している方もいる。夜間も、自分でトイレに行く方や紙パンツを利用する方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけ、1人ひとりの入居者の便秘に注意を払っている。また水分の摂取量をチェックしたり軽い運動への働きかけを行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	そのときの本人の希望や体調に合わせ、可能な限り入っていただけるよう支援している。	浴槽は、3・4人入ることができるタイルの大きな浴槽である。利用者の希望を聴きつつ、午前と午後の時間を使い、週3回入浴することができるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室については適温と適度な照明の明るさにして静かで安らぐ環境を整えている。日中に適度に体を動かすことにより夜気持ちよく安眠・休息が得られるよう生活習慣を整えるように支援したい。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが服用している薬の説明書をファイルしてあり職員は服薬しているその薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの能力に応じた料理や洗濯などの役割を担っていただいております。1人ひとりが趣味や気分転換等が実行できるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望にそって行き先を決め外出の支援をしている。普段は行けないような場所でも家族等の協力を得て出かけられるよう支援している	事業所前は、道が狭くて車もよく通るので、日常的な散歩はしにくい。毎週土曜日に、交代で買い物ツアーに車で出かけ、月1回は外出できるように支援している。また、毎月病院に受診を兼ねて外出している。家族と外出して食事や買い物ができるよう協力をお願いしている。	事業所横の庭を整備し、イスやテーブルを置いて、気軽に外気浴できるようにできればよいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の家族よりお預かりしているお金を利用し外出支援の時などに買い物をしてお金を所持し使える支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望すれば電話をしたりできるよう支援をしている。またご家族からもかかってくることもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員それぞれが整理整頓に気を付け居心地よく過ごよう配慮している。また季節の花を植えたりしている。	2階の食堂は日当たりが良く明るい、1階の食堂は窓が少なく少し暗い雰囲気がある。トイレは、和式と洋式の便器、男性用小便器がある。お風呂は、3・4人入ることができるタイルの浴槽である。トイレに手摺とスロープ、階段に昇降機が設置されている。	冬期、トイレは居室や食堂との温度差が大きいと思われるので、家族の要望でもある温水洗浄暖房便座の設置が望まれる。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間において1人ひとりが限定した場所で過ごすことのないよう、ひとりになったり、気のあった人同士が過ごせるような居場所作りを心がけ支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については本人の嗜好があり、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを配置し、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	居室の床は、ほとんど畳敷きで、落ち着いた雰囲気がある。大きなクローゼットが設置されており、荷物を整理することができる。使い慣れた机や椅子、洋服ダンスや仏壇などが置かれ、居心地よく暮らせる工夫がなされている。各部屋に内線電話が置かれており、安心である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所もない方や自分の部屋がわかりにくくなった方などにはドアにネームプレートや目印になるものをつけて安全かつ自立した生活が送れるよう工夫して支援している。		